

竹原小学校遺跡

古墳時代前期と平安時代の大集落

竹原小学校遺跡の発見

竹原小学校周辺の地下には、大規模な集落遺跡が眠っています。平成20年の放課後子どもプラン建設工事に伴う試掘調査で発見され、「竹原小学校遺跡」と名付けられました。平成25年の新校舎建設工事でも竪穴建物跡などが確認されています。

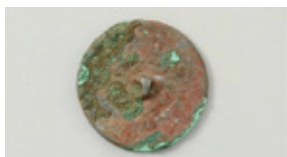
令和2年の発掘調査

今回、紹介する調査は、竹原小学校外周道路整備に伴って、約1200㎡を対象に実施されました。出土した土器は、縄文、弥生、古墳、平安、鎌倉、室町、江戸の各時代にわたっており、6000年前〜3000年前のものになります。

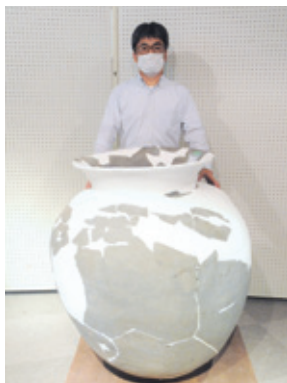
竹原小学校遺跡に大規模な集落が形成されたのは、全国に古墳が造られ始めた古墳時代前期（1700年前）と「平将門の乱」があった平安時代（1000年前）の2つの時代です。調査では、古墳時代前期が37棟、平安時代時代は25棟の竪穴建物跡が確認されており、何度も建て替えが行わ



土製模造鏡



素文鏡 出典: ColBase
<https://colbase.nich.go.jp>



須恵器の大甕

土製模造鏡

本来、古墳時代の鏡は青銅製ですが、鏡の形をまねて粘土で作り、焼き上げたものを「土製模造鏡」と呼んでいます。実用品ではなく、祭祀に使われたものと考えられます。破片で出土しましたが、復元すると、4cmほどになり、表面と裏面は赤く彩色されています。製作された年代は、同じ

れているようで、建物同士が重なっています。建物跡からは、当時の生活の道具である土器（土師器・須恵器）、砥石、土玉（漁の道具）、石製紡錘車、釘などが出土しています。このような遺物の他にも特殊な遺物が出土していますので、紹介していきます。

須恵器の大甕

竪穴建物跡から出土する土器は、廃棄目的のため、壊れた状態のものが多くです。しかし、この須恵器の大甕は人為的に底部に穴を開け、凝灰岩の平石の上に置かれた状態で出土しました。高さは103cmで、10mを超える大型の竪穴建物跡から見つかっています。

須恵器の大甕は、酒の貯蔵や醸造に用いたと考えられており、1000年単位の使用され続けることも多くあったようです。この須恵器の大甕も8世紀代に製作され、9〜10世紀まで祭祀用の酒の貯蔵などに使用されたのち、何らかの祭祀行為のために廃棄されたものと考えられます。

※小川資料館で開催されている「おみたま発掘ものがたり」では展示されています。

【語句解説】

竪穴建物跡…地面を円形や方形に掘り下げ、床面を作り、柱を立てて屋根材を乗せて、住居として使用される。一般的には5m程度のものが多い。

須恵器…朝鮮半島に起源がある青灰色の焼き物。古墳時代から平安時代に生産された。ろくろで成形し、甕窯と呼ばれる地下式の登り窯を用いて、還元焰焼成されることで強く焼きしまっている。

紡錘車…糸を紡ぐための道具。遠心力を利用して糸に撚りをつける。

竹原小学校遺跡
発掘調査空撮

